

神栖市営農型太陽光発電検討協議会（茨城県神栖市）

R3補正
R4当初

07

背景・課題

日本一の面積、生産量、販売額を誇っている神栖市の主要農産物であるピーマンは、施設栽培によって周年出荷されており、電気の使用は不可欠である。

海外情勢等の外部要因によって電気代が上昇し、経営を圧迫しており、安定的かつ安価にピーマン施設へ電気を供給する方法の確立が求められている。

成果目標と達成状況

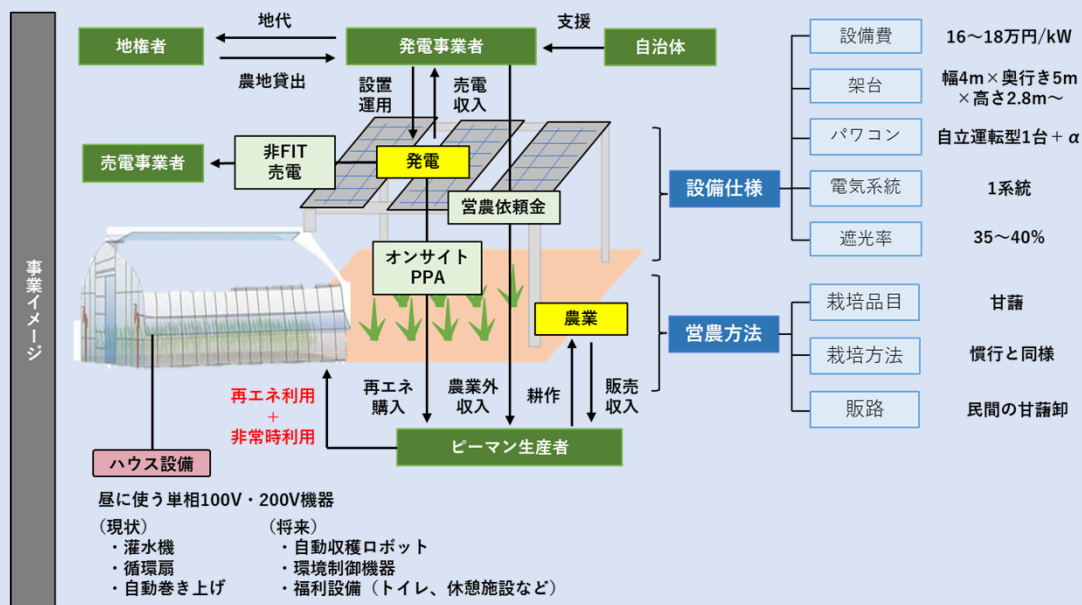
再生可能エネルギーを導入するとともに、ピーマン施設へ安定的に電力を供給するため、営農型太陽光発電のモデル構築を成果目標とした。

神栖市のピーマン生産者、営農型太陽光発電の専門家、電気事業者等を交えて地域ぐるみの話し合いを行い、以下のモデルを作成した。

取組の成果

遮光による減収等の課題から、ピーマン施設上部への太陽光パネルの設置については困難であり、ピーマン施設の隣接農地で営農型太陽光発電を行うモデルを整理した。野菜、果物、枝物等の候補品目から、収量、品質、販路等の観点で絞り込み、発電設備下での栽培品目は甘藷とした。発電した電気はピーマン施設で利用し、残りを売電することとしている。

●神栖市営農型太陽光発電モデル



普及に向けた取組

本モデルが実際に成立するかを検証するため、令和5年度内に設備の設置を目指している。設備設置後、作物の収量性、発電量、ピーマン施設での電気利用等を検証し、より神栖市に適したモデルへのブラッシュアップを進めていく。

問い合わせ先

神栖市営農型太陽光発電検討協議会

(代表 株式会社マイファーム solar-sharing_kamisu@myfarm.co.jp)